

町のすがた

(10月1日現在)

人口 男 3,343人(-8)  
女 3,617人(+3)  
計 6,960人(-5)  
世帯数 1,558 (-1)  
( )は9月1日との比較

# 10年

第91号

発行 昭和50年10月15日  
新潟県三島郡三島町役場  
電話 (025842) 2221  
印刷 長岡市北越印刷株式会社

## 豊作を考える

ことしも豊作で農家では、三年続きの喜びの秋を迎えたはずである……。

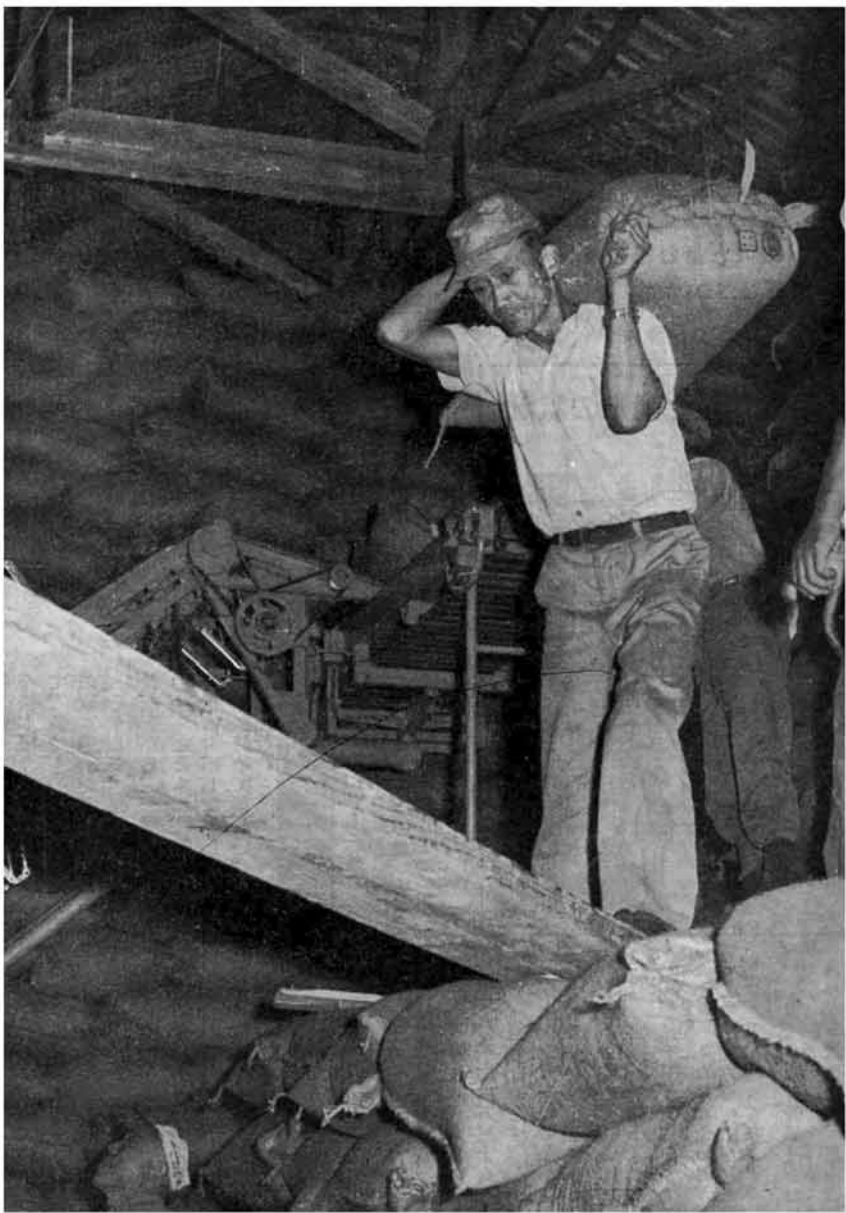
現在、政府の見通しでは約四十万トンの超過米として扱われるという。そして買入れ値段も決まっていらない。

農政に対するいろいろな見方もあるが、現実には「飽作」なのである。「飽」は度を超して満たされているという意味を持つ。ことしの豊作は天候が最大要因であることは間違いないが、多収品種だけを求め続

けた「あの風潮」が芽生えつつあることも見逃せない。

全国で果樹の特産地、野菜の特産地といわれるところは、とうにこの苦い体験をして、努力の結果今日の名声を得ている。

「幻のコンヒカリ」などと市場でいわれているようでは、なんとも心もとない話。県全体が将来生き残れる農業を考えて良質米の産地づくりで他県をリードする時期と思うが、農家のみなさんはどうか。



10/1 脇野町農協上岩井倉庫で

## 在宅重度障害者に

10月から

## 福祉手当が支給されます

十月から、重度の身体の障害などのため自宅で常時介護を必要とする人などを対象に一人月額四千円の福祉手当が支給されることになりました。

支給の要件、支給対象者などは次のとおりです。対象と思われる家族のおられる人は、十月中に福祉係に詳細をおたずねのうえ手続きを済ませてください。

■支給の要件は、  
ア、精神及び身体に重度の障害を有し日常生活に常時介護を要する人。  
イ、在宅の障害者で、そのことを理由として他の制度による給付を受けていない人。ただし障害福祉年金、特別児童扶養手当については併給されることになっていません。

■支給の対象者は  
ア、日常生活に常時介護を要する身体障害者(身体障害者手帳の一级及び二级の一部の人も含まれる。)

### 脇野町鋸 (上)

人が手に道具を持つようになつてから人類の歴史が始まる。人類の手と道具との長いつき合いの歴史の中から職人が生まれ、豊かな生活経験と伝統にささえられた職人芸は、人々の生活に便宜と潤いを与えてきたと語られている。

脇野町鋸の草創者・中屋庄兵衛は会津に行き鋸鍛冶の業を学び、天保十三年(約千三百年前)二十



五才で帰郷したと伝えられる脇野町鋸の元祖である。  
中屋庄兵衛の一族、同門が鋸鍛冶として脇野町や三条はもちろんで、遠く江戸にも鋸鍛冶としての腕をふるった。

現在、脇野町の鋸鍛冶がつくる鋸の作銘(商標)のほとんどすべてを「中屋」とするものも、その系統をつぐためである。

町の資料館に中屋庄兵衛作の鋸(写真)が二点あるが、その鋸に接するたびに中屋庄兵衛の偉業を思う。



### 第8回国際高令者世界最高大会に参加

九月十五日、山梨県山中湖畔で開かれた「第八回国際高令者世界最高大会」の参加者の中に三島町から参加した二人の「中年のフアイトマン」(失礼)があった。この二人は吉崎の小林繁樹さん(写真右)藤田五郎ゆきさん(写真左)です。

二人は、以前から走ることに健康の源であると信念に燃え、毎日七、八キロのトレーニングを続けてこられたが、この大会があることを知りぜひ参加し自分の体力

## みてくれこの成果 健脚を發揮

を知ること、同じ志を持つ人と交流を深めたいと考え早速申し込みをされ、参加されたものです。二人とも「十キロ走」に参加され小林さんは五十才から五十四才クラス二百四十六人中三十位、藤田さんは四十才から四十四才クラス二百九十四人中百位とゆうゆう完走されみごとな健脚ぶりを示されました。二人の「若々しい心意氣」に大きな拍手を送りたい。

善意の寄附二件  
このほど次の二名のかたから善意のご寄附をいただきました。お礼申し上げます。  
◇原佐市郎(脇野町)さんから、交通安全のために金一万円。  
◇小瀬権左衛門(藤川)さんから、社会福祉のために金一万円。

### 10、11月衛生行事

月日	種目	対象者	ところ	とき
10.20	子宮ガン検診	希望者	総合福祉センター	13.00~14.30
10.21	生ワクチン投与	49.7.1~50.6.30生れの幼児	〃	14.00~15.00
10.22	乳児検診	生後3カ月~1年未満の乳児	〃	12.30~14.00
10.27	レントゲン	該当者には通知します	〃	13.30~15.00
10.31	キッチンカー(栄養指導車)	希望者	新保公民館前	10.00~11.30
			福祉センター前	13.30~15.00
11.7	妊婦検診	妊婦	総合福祉センター	13.00~15.00
11.14	乳児検診	生後3カ月~1年未満の乳児	〃	13.00~15.00

## 長岡電報電話局からお願い

- ◇ お祝い電報はこみあいます。「配達日時指定」は10日前から受け付けます。〒115をダイヤルください。
- ◇ 家屋の新築、改築などのときは、電話用の配管も忘れずお願いします。
- ◇ 電報電話のご相談はお気軽におたずねください。

## 危険物取扱者試験

- ◇ 試験日 11月9日(日)午前9時から
- ◇ 受験資格 乙種—事業所等において危険物取り扱い実務経験6か月以上  
丙種—実務経験問わない
- ◇ 申し込み 10月18日(土)まで総務課消防係に

## 季節の話題 秋三題

一日現在で全国的に秋の調査が行われました。ふだん住んでいる人が調査対象ということで「町のすがた」にある人口より三島町では少なくなるのが通例です。六千八百二十人前後の数字と思われるが、はたして当るかどうか。来月号で人口、世帯数の概略をお知らせできる予定です。

読書週間 秋の夜長は燈下親しめ、やがてくる冬物のつくろいや編物、そしてお子さんにとっても今が勉強にとりくむ絶好の季節です。二十七日から「読書週間」です。ふだんいそがしくて新聞もろくに読めないというお母さんがたもこの機会にお子さんにつき合せて、昼間読み切れなかった新聞をまとめて読み返したり「だんな様」の遅い帰りをイライラ待つより、読書で心を安らかにさせたい。

立春(十一月八日) 立春を過ぎてから春のようには晴れた暖かい日があります。夏のはじめに「春秋」ということばがあるのに対してこのようない日を「小春」といいます。玉の如き小春日和を授かりし日ごとに気温が上がり、寒くなってゆくそのころ、ふと訪れた暖かいおだやかな日。忘れていた春の陽気を感じさせることから「小春」、「小春日和」、「小六月」の名がつけられたものでしょう。

# 町の統計

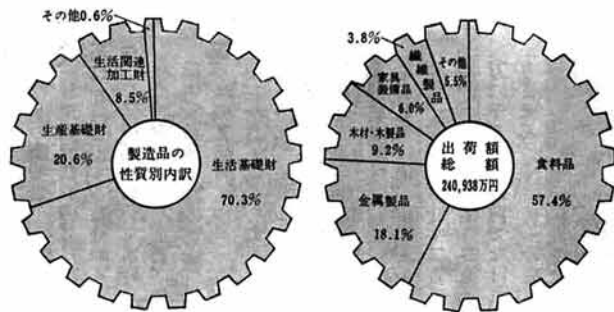
(四)

グラフは、四十九年度工業統計調査の各業種別内訳、生産種別内訳を表わしたものです。

四十九年度の産業活動は、四十八年までの上昇基調から一転して不況期を迎えたため、果全体の製造品出荷額は、前年を二・四割下回る結果に終わりました。

三島町でも清酒、木材木製品などにこの傾向が強く、出荷額に大きなウェイトを占める清酒部門を十割程度の伸び率にとどめるなど毎年二十割以上の成長を続けてきた町産業活動にブレーキをかけ、前年に対して十五割の伸び率にとどめました。

グラフの生活基礎財とは食料、繊維、木材製品、生産基礎財とは鉄鋼、金属製品などを、生活関連加工財とは家具などをいいます。



九月十二日から開かれた九月の

## 定例会議工事契約などを決議



定例会議は二十五日、三島中学校の最終工事となる体育館と校舎を結ぶ連絡廊下、クラブ室などの増改築を含む工事を、千六百五十万円で御吉原組と契約することなどを議決して終了しました。

工事が順調に進めば、十二月中旬には、すべての工事が完了し、四十八年のグラウンド造成工事に始まった一連の中学校関係工事はすべて終ることになります。

このほか、十一月一日に「合併二十周年記念式典」を行なうための経費百五十万円など総額六百七十万円あまりの一般会計追加補正予算、国民健康保険会計を約千五



百万円減額する補正予算などが議決されました。

国民健康保険会計の補正は、国からの補助金が当初見込みを大きく上回ったこと、昨年から医療費値上げによって急上昇を続けていた保険給付費の伸びがようやく落ち着いたことなどによって、各世帯の負担する保険料の一千万円減額が主な要因です。

## 児童手当のお知らせ

- ◇ 今月は児童手当の支払い月です。10日までに各金融機関の口座に払い込みました。
- ◇ 10月分から1か月分5,000円になりました。

## 秋季消防演習を実施

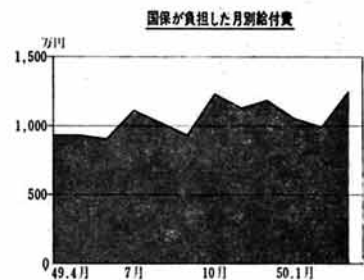
- ◇ 11月9日(日)秋季消防演習として非常呼集訓練を実施します。
- ◇ これから火を使う機会が多くなります。くれぐれも「火の元」にご注意ください。

## 特別会計

### 国民健康保険会計 苦しいやりくり—企業

収入総額は、一億八百二十万円、支出総額は九千九百六十八万円で、そのうち被保険者の負担した保険料は四千二十八万八千円、その収入に占める割合は三十七・三割前年度と比較して約千二百万円も増えています。さらに、被保険者数が前年度より二百五十八名も減少していますから一人当りの負担額は一・五倍にもなっています。

決算の数字から計算してみますと加入者一人当りの保険料は一万



者さんにかかり、一回につき七千六百円ほどの医療費をかけたことになり、健康をお金で買っているようなものです。

そんななかで、四十九年度に一度もお医者さんにかからない人が四百六十三名ありました。日ごろから健康管理に注意され、病気を早期発見、早期診断されることが自分の健康を保つばかりでなく、一石二鳥の方法だと思えます。

## 水道・ガス事業会計

水道事業では、依然として苦しいやりくりが続く、総収入額二千九百八十万円のうち七百万円、約二十三割を一般会計から補助金として繰り入れていきます。

給水収入は約二千二百万円、これを加入一世帯当りになおすと一万三千六十円となります。一年間の総配水量、すなわち浄水場から送り出された水は、前年度より十六割増えて約三十九万ト、家庭用のふろなら毎日沸かしても二千三百

一年は使えるというものすごい量になります。

一方、ガス事業は総収入額二千六百一十一万円、そのうち料金収入千八百七十七万円に對して、総支出額は二千七百五十万円、差し引き百三十五万円の赤字決算でした。さらに五十年から借入金返済も始まるので、一層むずかしい経営が予想されます。

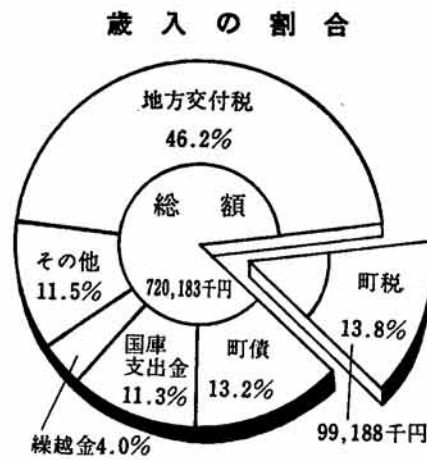
この点について「経営の効率化をはかって、企業経営に努力する必要がある。」と監査委員の意見が述べられています。



着々と進む道路整備

# 税金はこう使われた

一般会計、国民健康保険特別会計の四十九年度決算が九月の定例会議で認定をうけました。また、水道、ガス事業の企業会計決算も六月の議会で認定されています。そこで、私たちの税金がどのように使われたかなど、四十九年度の税金のゆくえを追って見ました。



## 監査委員の意見

今回認定された一般会計と国民健康保険会計について監査委員の意見

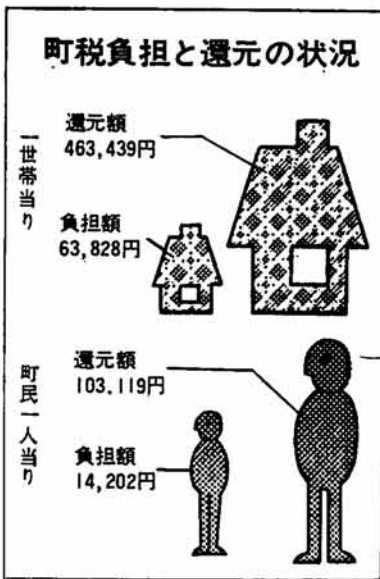
## 歳出の割合 (金額は千円)



## 49年度決算から

## 一般会計

歳入総額 720,183千円  
歳出総額 699,941千円  
差引残額 20,242千円



書は次のように述べています。両会計とも計数に誤りはなく証書類も整備されていて会計経理は正常と認められた。四十九年度は健全な財政運営を行なって赤字で翌年度に引き継ぐことができた。今後とも限りない行政需要に對して、急ぐものとするでないものとの取捨選択を考慮して欲しい。

そうして、深刻な地方財政の現状などから、一層経費の節減に努力するとともに、社会経済情勢の変化に對応しながら、住民福祉の向上に努めて欲しい。

町税では、町民税が最も多く三千九百九十九万円は、一世帯平均六万三千八百円ほどの税負担となります。しかし、町民税、固定資産税のなかには、会社などの法人が負担するぶんも含まれていますので、これを除いた額を一世帯当りに計算するとおよそ三万五千円となります。

ちなみにたばこ消費税は一世帯平均六千円にもなり貴重な町の収入となつていきます。

教育費が三十七パーセント

歳出では、三中改築関係費用が含まれる教育費が当然のことながら圧倒的に多く三十七割と全支出の三分の一を超えて、大事業であったことを裏付けています。

なお校舎本体の改築関係経費は三分の一が四十九年度支出、残り三分の二が五十年で予算で支払われることになっていきます。そのため、四十九年度の支出のなかには本年度の支払いのため積み立てた約四千万円も含まれています。

町道整備などに五千万円

土木関係費のうち、予算の半分以上が町道の拡幅改良などに使われた経費などを総称して、「投資的経費」と呼び、これに對して人件費、補助金などは、「消費的経費」と呼んでいます。

決算では、全支出に占める投資的経費の割合が三八・五割で前年度より約八割多くなっています。この分消費的経費の割合が低くなっています。

人件費、町の借入金である公債費などは年々増加する傾向にあるわけですが、今回のように消費的経費の割合が低くなることは、町の財政運営上好ましい結果であるといえます。

高い依存財源の割合

予算規模の膨らみなどによって、自主財源である町税収入が前年度より二千万円ほど伸びたにもかかわらず、歳入の十三・九割を占めるにとどまり、前年度を下回る割合となつていきます。

一方、校舎改築のための国からの補助金約八千万円のうち、三千六百九十九万円が、国庫支出金の割合が十一割と高くなったのが特徴で、やはり四十九年度も地方交付税、国庫補助金など依存財源の割合が高くなっています。

町税では、町民税が最も多く三千九百九十九万円は、一世帯平均六万三千八百円ほどの税負担となります。しかし、町民税、固定資産税のなかには、会社などの法人が負担するぶんも含まれていますので、これを除いた額を一世帯当りに計算するとおよそ三万五千円となります。

ちなみにたばこ消費税は一世帯平均六千円にもなり貴重な町の収入となつていきます。

教育費が三十七パーセント

歳出では、三中改築関係費用が含まれる教育費が当然のことながら圧倒的に多く三十七割と全支出の三分の一を超えて、大事業であったことを裏付けています。

なお校舎本体の改築関係経費は三分の一が四十九年度支出、残り三分の二が五十年で予算で支払われることになっていきます。そのため、四十九年度の支出のなかには本年度の支払いのため積み立てた約四千万円も含まれています。

町道整備などに五千万円

土木関係費のうち、予算の半分以上が町道の拡幅改良などに使われた経費などを総称して、「投資的経費」と呼び、これに對して人件費、補助金などは、「消費的経費」と呼んでいます。

決算では、全支出に占める投資的経費の割合が三八・五割で前年度より約八割多くなっています。この分消費的経費の割合が低くなっています。

人件費、町の借入金である公債費などは年々増加する傾向にあるわけですが、今回のように消費的経費の割合が低くなることは、町の財政運営上好ましい結果であるといえます。